

リウマチセンター

Rheumatic Disease Center

リウマチセンター長
三森 経世



集学的治療と臨床サンプルを用いた橋渡し研究の推進で リウマチ性疾患の克服をめざす

集学的医療を行う西日本で初めての本格的な内科・整形外科共同のリウマチセンターである。新しい血液検査、関節超音波や新しいMRI撮像法などの画像検査を用いた最先端の検査や、確立した方法に加えて新規導入された治療を有効かつ安全に用いて、正確な診療を行っている。内科的診療・治療法と、整形外科的診療・治療法を有機的に結びつけて診療を進めているのが特徴である。関節リウマチの総合的患者データベースKURAMAコホート作成を進め、このデータを解析して患者さんへ還元するとともに、よりよい治療をめざして臨床研究を行っている。また、臨床データと試料が対応したサンプルセンターを持ち、臨床サンプルを用いた橋渡し研究の推進のため、内外の研究部門とともに精力的に共同研究を行っている。

代表的診療対象疾患

関節リウマチ、および原因不明の持続性関節痛をきたす疾患を診療。特に発症早期の関節リウマチは、「寛解」あるいは「治癒」に導くことができるように積極的に治療する。また発症してすでに数年以上経過し確立した病状に対しても「寛解」をめざす。そのために、薬物的治療にとどまらず、関節注射、リハビリテーション、装具治療や、有効性の高い手術治療を組み合わせ、日常生活の過ごしやすさを目標に治療を進める。

業務内容の特徴と実績

内科的治療から外科的治療まで対応

京大病院リウマチセンターは、関節リウマチに対する治療法の目覚ましい進歩を受けて、集学的治療を目的とした西日本で初めての本格的な内科・整形外科共同のリウマチセンターとして、2011年4月に設立された。内科医師2名、整形外科医師2名が専属で業務にあたり、内科的治療から外科的治療まで幅広く総合的治療を行っている。関節超音波外来を開設するなど、最新の検査・治療を導入している。

データの蓄積・活用や共同研究を推進

本格的な患者データベースであるKURAMAコホート構築により、さまざまなデータの蓄積とその活用をめざしている。独自の取り組みとして、患者さんの教育と相互交流をめざしたリウマチ教室の定期的開催、「あなたのリウマチレポート」の発行、「京大リウマチ通信」の定期刊行に加え、他科・他院との連携の場である「京都インプリキシムセミナー」

の開催、近隣の医療施設との連携の場である「京都リウマチネットワークフォーラム」を開催している。また、臨床研究、基礎研究においては、リウマチセンター独自の研究に加え、内外の研究機関や多くの企業との共同研究を進めている。



臨床研究の取り組み

関節リウマチの臨床研究を推進

関節リウマチデータベースであるKURAMAコホート(写真)をもとに、臨床研究を推進している。年に一度行う「リウマチ調査」では、定期的・継続的に行う検査やアンケート調査に加え、当該年度の特別調査を行い、関節リウマチの病態、現状と治療効果について研究を進めている。2013年に京都で開催された日本リウマチ学会学術集会では、KURAMAコホートおよびリウマチ調査に基づく臨床研究から、計10題の演題が採択され、発表を行った。現在も30を超える臨床研究、臨床試験、治験などが

進行中である。今後も関節リウマチの病態解明とよりよい治療をめざして、当センター独自の臨床研究はもとより、近隣各医療施設や、日本全国の主要医療機関と協働した大規模な多施設共同研究も推進していく。

